

広島大学大学院博士課程リーダー育成プログラム 「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」履修生（学内特別選抜）募集要項

本学の博士課程前期 1 年次または博士課程後期 1 年次に入学した学生で、プログラムの履修を希望する学生を対象とした、学内特別選抜を行います。

アドミッション・ポリシー

広島大学博士課程教育リーディングプログラム「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」は、国内外の教育研究機関や企業、国際協力機関等との連携・協力の下、時間と空間の広がりによって多様に育まれた地域独自の社会と文化を深く理解し、それを踏まえて地域が抱える課題の克服のために、必要な先端科学技術を見出だし、育むことによって、多文化共生社会を支えるリーダーを育成することを目的としています。そのため、多文化共生社会をささえるリーダーに必要な自主性、実行力、多角的思考力、創造力を育成する 5 年一貫の博士課程教育プログラム「たおやかプログラム」を実施しています。

本プログラムでは、地域の社会・文化を深く理解し、それらをふまえて条件不利地域の問題解決のために技術を開発し、その成果を社会に実装することによって、地域に寄り添う形で多文化共生社会に貢献するグローバルリーダーの育成を目指しています。

（一般選抜）本プログラムの一般選抜では、次のような学生を求めています。

- (1) 横断的知識と技術を身につけ、社会の発展に貢献したい人
- (2) 条件不利地域の文化や課題に関心があり、そうした地域の発展に貢献したいと強く願う人
- (3) リーダーとなって、地域・国際社会で活躍したい人
- (4) 意欲、行動力、責任力、人間力に優れた人

（3 年次編入）本プログラムの 3 年次編入では、次のような学生を求めています。

- (1) オンサイト・イノベーションの実践に必要な専門知識・技術を有していること
- (2) 博士課程 3 年次（博士課程後期 1 年次）から開始する分野横断学生チームによるオンサイト・チームプロジェクトのビジョンを有していること
- (3) 多文化共生に関する高度な理解と関心を有していること

1. 募集人員

| コース | 区分 | プログラム履修開始時期 | 募集人員 |
|-------------------------------|-----------------------|-------------|------|
| 文化創生コース 技術創生コース 社会実装コース | 一般選抜 または 3 年次編入 | 2018 年 10 月 | 若干名 |

2. 出願資格

（一般選抜）2018 年 4 月に、本学大学院博士課程前期 1 年次に入学したもの。

（3 年次編入）2018 年 4 月に、本学大学院博士課程後期 1 年次に入学したもの。

※ 志願者は、「8. プログラム担当者一覧」及びプログラムウェブサイトを参照のうえ、主任指導を希望する本学のプログラム担当者と、自らが希望する活動がプログラムに適しているか及び希望研究内容等について事前に相談してください。

3. 出願書類

以下の出願書類を郵送または持参してください。

| 書類等 | 摘 要 |
|-----------|---|
| 志願票 | (所定様式) 最終頁の所定様式をお使いください。 |
| 履歴書 | (所定様式) ※所定様式は、下記ウェブサイトからダウンロードできます。 http://taoyaka.hiroshima-u.ac.jp/admissions/how-to-apply.html |
| 小論文 | |
| 研究計画書 | |
| 推薦書 | |
| 成績証明書 | ※一般選抜は学部、3年次編入は出身大学の学部・博士課程前期分を提出すること。 |
| 卒業（修了）証明書 | |

【以下、該当者のみ提出すること】

| | |
|---|--|
| 英語検定の成績証明書 | 英語を母国語としない者のみ。 入学試験日から原則過去2年以内に受験した、TOEIC [®] テスト、TOEIC [®] IPテスト、TOEFL iBT [®] テスト、TOEFL [®] PBTテスト、TOEFL ITP [®] テスト又は IELTS のいずれかの成績証明書を提出すること。 |
| 日本語検定の成績証明書 | 日本語を学習したことがある外国人の志願者のみ。 入学試験日から原則過去2年以内に受験した、日本語能力試験、日本留学試験の「日本語」、中国とマレーシアで実施する「外国政府派遣留学生等に対する予備教育の修了試験」または実用日本語検定（J.TEST）のいずれかの成績証明書を提出すること。 |
| オンサイト・チームプロジェクトプロポーザル | 3年次編入を希望する者のみ。 (所定様式) 下記ウェブサイトからダウンロードできます http://taoyaka.hiroshima-u.ac.jp/admissions/how-to-apply.html |
| 研究歴等概要及び研究業績目録 | |
| 修士論文又はそれに相当するものの概要 | 3年次編入を希望する者のみ。 |
| GRE(Graduate Record Examinations)の成績評価証明書 | GREを受験した者は、成績評価証明書を提出してください。 |

4. 選抜方法・試験日程

- (1) 出願期間： 2018年5月21日（月）～2018年5月25日（金）17時（必着）
提出先：「7. 照会及び出願書類等の提出先」を参照してください。
出願書類の確認後、受験番号を電子メールにてお知らせいたします。
- (2) 第1次選抜（書類審査）及び第2次選抜（面接審査）の2段階選抜を行います。
第1次選抜（書類審査）合格発表： 2018年6月15日（金）
第2次選抜（面接審査）： 2018年6月18日（月）～2018年6月29日（金）の本学の指定する日時に、第1次選抜（書類審査）の合格者に対して面接審査を行います。試験実施の日時・場所の詳細は、個別に連絡します。
- (3) 最終合格発表： 2018年7月25日（水）10時
プログラムウェブサイトを受験番号を掲載するとともに、合格者に通知します。

5. 修学に要する経費

授業料（半期） 267,900 円（2018 年度後期分から）

- (1) 上記記載の金額は 2018 年 3 月現在のものです。在学中に納付金の改定が行われた場合には、改定後の納付金を納入することになります。
- (2) プログラムの履修をする者は、授業料免除申請を行うことができます。

6. 修学上の経済支援について

プログラムの履修をするものには、次の支援を実施します。ただし、途中でこのプログラムを離籍する者は、その時点で支援を打ち切るものとします。

(1) 2020 年 3 月まで

①奨励金の支給（月額 12～15 万円）

- ・ 支給を申請し認められたものに支給します。
- ・ 奨励金は所得として課税の対象となり、所得税・住民税の納付が求められます。その他、国民健康保険や国民年金への加入が求められます。
- ・ 奨励金を受給する者には本プログラムに対する専念義務があるため、原則としてアルバイト等はできません。
- ・ 支給額は、学業成績や履修状況等の評価により、学期毎に見直されます。
- ・ 本学の定めるところにより、支給を減額または停止することがあります。

②その他、プログラムの履修に必要となる経費について、本プログラムが定める範囲において支給します。

(2) 2020 年 4 月以降（予定）

- ①成績優秀者に対する奨学金の支給（月額 5 万円）（学業成績及び顕著な業績により、学期毎に選考する予定）
- ②成績優秀者に対する授業料不徴収（学業成績により、学期毎に選考する予定）
- ③その他、プログラムの履修に必要となる経費について、本プログラムが定める範囲において支給します。

7. 照会及び出願書類等の提出先

広島大学たおやかプログラム事務室 ※受付時間：9時から17時まで（土日・祝日を除く）

〒739-8529 東広島市鏡山1丁目5番1号 国際協力研究科 213

Tel: 082-424-4692 E-mail: apply@taoyaka.hiroshima-u.ac.jp

8. プログラム担当者一覧

(文化創生コース)

| 氏名 | 所属（研究科・専攻等）・職名 | 専門 |
|------------------------|--------------------|----------|
| 友澤 和夫 | 文学研究科人文学専攻・教授 | 人文地理学 |
| 後藤 拓也 *)2018年4月着任予定 | 文学研究科人文学専攻・准教授 | 人文地理学 |
| 熊原 康博 | 教育学研究科教育学習科学専攻・准教授 | 自然地理学 |
| Funck, Carolin | 総合科学研究科総合科学専攻・教授 | 観光地理学 |
| Maharjan, Keshav Lall | 国際協力研究科教育文化専攻・教授 | 南アジア地域研究 |
| 関 恒樹 | 国際協力研究科教育文化専攻・准教授 | 文化人類学 |
| 中空 萌 *)2018年3月着任予定 | 国際協力研究科教育文化専攻・講師 | 文化人類学 |
| 中矢 礼美 | 国際協力研究科教育文化専攻・准教授 | 比較国際教育学 |

(技術創生コース)

| 氏名 | 所属（研究科・専攻等）・職名 | 専門 |
|--------|-------------------------|-----------|
| 石井 抱 | 工学研究科システムサイバネティクス専攻・教授 | センシング工学 |
| 辻 敏夫 | 工学研究科システムサイバネティクス専攻・教授 | 生体工学 |
| 西崎 一郎 | 工学研究科システムサイバネティクス専攻・教授 | システム工学 |
| 餘利野 直人 | 工学研究科システムサイバネティクス専攻・教授 | 電力システム工学 |
| 高橋 勝彦 | 工学研究科システムサイバネティクス専攻・教授 | 経営工学 |
| 山本 透 | 工学研究科システムサイバネティクス専攻・教授 | 制御工学 |
| 高木 健 | 工学研究科システムサイバネティクス専攻・准教授 | ロボット工学 |
| 造賀 芳文 | 工学研究科システムサイバネティクス専攻・准教授 | 電力システム工学 |
| 栗田 雄一 | 工学研究科システムサイバネティクス専攻・准教授 | 人間工学 |
| 東 清一郎 | 先端物質科学研究科半導体集積科学専攻・教授 | 半導体工学 |
| 角屋 豊 | 先端物質科学研究科量子物質科学専攻・教授 | 光エレクトロニクス |

(社会実装コース)

| 氏名 | 所属（研究科・専攻等）・職名 | 専門 |
|--------|-------------------------------|------------|
| 藤原 章正 | 国際協力研究科開発科学専攻・教授 | 交通工学 |
| 金子 慎治 | 国際協力研究科開発科学専攻・教授 | 環境資源経済学 |
| 張 峻屹 | 国際協力研究科開発科学専攻・教授 | 都市・交通計画 |
| 市橋 勝 | 国際協力研究科開発科学専攻・教授 | 経済学 |
| 柿中 真 | 国際協力研究科開発科学専攻・教授 | 国際経済学 |
| 川野 徳幸 | 平和科学研究センター 併 国際協力研究科開発科学専攻・教授 | 平和学 |
| 吉田 雄一郎 | 国際協力研究科開発科学専攻・教授 | 開発マクロ経済 |
| 後藤 大策 | 国際協力研究科開発科学専攻・准教授 | 応用ミクロ経済学 |
| 力石 真 | 国際協力研究科開発科学専攻・准教授 | 都市工学 |
| 李 漢洙 | 国際協力研究科開発科学専攻・准教授 | 海岸・海洋工学 |
| 大橋 晶良 | 工学研究科社会基盤環境工学専攻・教授 | 水環境工学 |
| 河合 研至 | 工学研究科社会基盤環境工学専攻・教授 | コンクリート工学 |
| 塚井 誠人 | 工学研究科社会基盤環境工学専攻・准教授 | 地域計画・統計解析 |
| 櫻井 里穂 | 国際協力研究科教育文化専攻・准教授 | 比較教育学・教育開発 |

※ 研究内容の詳細は、<http://taoyaka.hiroshima-u.ac.jp/member/academic-mentor/> を参照してください。

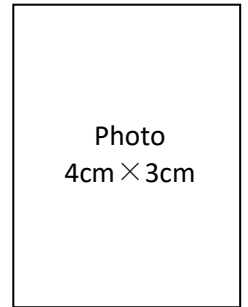
注1) 出願において、志望コースと志望指導教員の所属コースは必ず一致させてください。

注2) プログラム履修生は、主任指導教員が所属する研究科に在籍し、研究科専攻の修了要件を満たす必要があります。

注3) 3年次編入生は、プログラム履修生特別選抜試験の結果及び既修得科目の内容により、プログラムの2年次までの授業科目の履修を求めることがあります。

広島大学大学院博士課程リーダー育成プログラム
「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」履修生（学内特別選抜）

志願票



*受験番号は記入しないでください

| | | | | | | |
|-----------------------|--------------|---|----------------|-------------------|-------|--|
| | 学 生 番 号 | | 受 験 番 号 | | | |
| 志 望 情 報 | 志望コース | | | | | |
| | 志望指導教員氏名 | | | 内諾の有無 ○をつけて下さい | 有 ・ 無 | |
| 志 願 者 情 報 | 氏 名 | | | 生 年 月 日 | | |
| | | | | 年 月 日 | | |
| | カタカナ | | | 性 別 | 年 齢 | |
| | 住 所 | 〒 | 電 話 | () | - | |
| | | | Fax | () | - | |
| | | | 携 帯 | - - | | |
| メー ル | | | | | | |
| 留学生区分 (留学生のみ) | 私 費 国 費 | | 国 籍 (留学生のみ) | | | |

